

自主防犯活動の実態と課題に関する調査研究 —福岡ガーディアンエンジェルスに対する参与観察を通して—

福岡大学工学部社会デザイン工学科 学生会員 ○日高 彰悟
 福岡大学大学院工学研究科 学生会員 淡島 正憲
 福岡大学工学部社会デザイン工学科 正会員 柴田 久, 石橋知也

1. 研究の背景・目的

今日、犯罪認知件数は平成14年をピークに減少傾向にあるものの、依然として犯罪に対する市民の不安感が高い。近年では市民による自主的な防犯ボランティアの活動団体(以下:防犯団体)が増加傾向にあり、地域毎に防犯パトロールや防犯カメラの設置等が推進されている。しかし、これら防犯団体の活動の実態や要点等については未だ明らかになっていない部分も多い。

本研究では、福岡県における自主的な防犯団体の活動の実態と課題を明らかにする。ここでは福岡市天神地区を対象に活動する日本ガーディアンエンジェルス福岡支部(以下:福岡GA)への参与観察によって実践的な調査・分析を試みる。

2. 日本GAの概要

GAは1979年、ニューヨークでスリワ氏によって創設され、犯罪の横行していた地下鉄における防犯パトロールの支持により、活動域が全米に広がった。これに対し日本GA本部はニューヨークGA本部に所属していた小田啓治によって1996年2月に発足している。小田は日本GA理事長として「警察と連携する」「地域住民や住民組織と交流する」「マスメディアを活用する」という戦略を立て、全国における支部の発足にまで活動を発展させた¹⁾。1999年には経済企画庁がGAの法人格を認証し「NPO法人日本GA」が誕生している。

3. 福岡県防犯団体及び福岡GAの活動実態

(1) 福岡県における防犯団体の活動傾向の把握

県内に存在する防犯団体を把握すべく、福岡県新社会推進部生活安全課が運営する「あんあんネット」²⁾を利用し、登録された389団体を対象に活動内容とその割合について調査した。ここでは、登録団体の活動を12項目の内容に分類し団体毎に単純集計し、加えて相

関分析による活動内容相互の関連性の検討を行った。単純集計結果を表-1に示す。活動内容では「防犯パトロール」が90.7%、「子どもの保護・誘導」が72.2%と高い割合を示した。一方「防犯指導・診断」は15.7%、「屋外違法広告物撤去」は0.5%、「乗り物盗予防」は12.1%と低い割合を示した。次に相関分析の結果より、「乗り物盗予防」は「放置自転車対策」と「駐車場・駐輪場警戒」との間にそれぞれ0.457, 0.540の相関係数が、「危険箇所点検」と「地域安全マップ」との間にも0.431の相関係数が確認された。

(2) 福岡GAの活動内容について

本研究では平成23年4月1日から平成24年8月10日までの福岡GAの活動報告書を入手するとともに、平成24年3月からの約10ヶ月間に渡る参与観察調査の結果から天神地区の現状ならびに活動の特徴を把握した。福岡GAは警固公園内にGAホワイトベースという防犯テント(写真-1, 2)を設置し、これを拠点に警固公園ならびに西通り、その周辺地域の防犯パトロールを毎週金曜日に行っている。具体的な活動としては、合同パトロール、喧嘩や泥酔者、天神地区における事件事故への対応等の活動が看取された。また活動の際には赤いベレー帽等、団体のユニフォームを着用している。

(3) 防犯テント来訪者における利用目的の分類

上記福岡GAが拠点とする防犯テントへの来訪者の利用目的を、活動報告書のうち詳細が記述された16日分のデータを整理した結果、「避難所」「常連」「始発待



写真-1 福岡 GA 防犯テント 写真-2 活動の様子

表-1 福岡県の防犯ボランティア団体の活動内容及び単純集計

活動内容	防犯 広報	防犯 教室・ 講習会	防犯 指導 ・診断	地域 安全 マップ	防犯 パト ロール	危険 箇所 点検	子ども 保護・ 誘導	環境 浄化 活動	屋外違 法広告 物撤去	乗り 物盗 予防	放置 自転車 対策	駐車場 駐輪場 警戒
活動割合	132 33.9%	107 27.5%	61 15.7%	129 33.2%	353 90.7%	177 45.5%	281 72.2%	121 31.1%	2 0.5%	47 12.1%	84 21.6%	47 12.1%

表-2 来訪者利用目的分類

	来訪者数	避難所	常連	始発待ち	待ち合わせ	その他
合計(割合)	316	11(3.5)	143(45.3)	42(13.3)	33(10.4)	85(26.9)

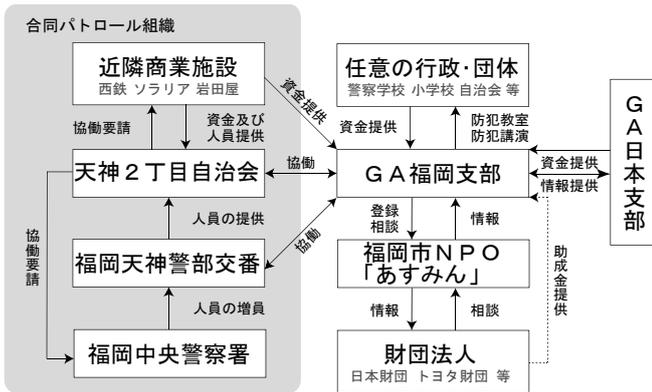


図-1 福岡 GA と関係団体

「待ち合わせ」「その他」の5つの分類が把握された(表-2)。特に「常連」が45.3%と最も多く、福岡GAの拠点である防犯テントが特定の人達にとって、気軽に立ち寄れる場として利用されていることが明らかとなった。また3.5%と少ない割合ではあるが緊急時における「避難所」としても機能している実態が看取された。

4. 福岡GAの活動実態

(1) 福岡GAの運営体系

福岡GAの運営体系を図-1に示す。これより福岡GAが登録している機関として、ボランティアを行う市民や団体を支援するNPO「あすみん」が挙げられる。また福岡GAは防犯講演を行うことで謝金を得ており、加えて近隣商業施設からも活動資金の援助を受けて運営を維持している。一方、防犯活動の開始時には活動場所の管轄である天神警部交番に挨拶に出向き、その日の天神の状況を把握している。活動終了時においても交番に対して当日の活動内容と活動中の状況について報告し、情報の引き継ぎを行っている。さらに地元防犯団体「天神2丁目自治会」との協働関係を構築し、活動情報の共有および合同パトロール等を実施している。特に「天神2丁目自治会」は前述した福岡GAの防犯テントの設置に関わる警固公園使用申請(使用責任者は福岡GA支部長)を担当していることが明らかとなった。

(2) 合同パトロールの実態

毎月第4金曜日に行われている「天神2丁目自治会」との合同パトロールは平成18年8月に始まり、福岡GAは同年の9月から参加している。現在、合同パトロールには毎回20名程度参加しており、ひたくり等への防犯の呼び掛けや声掛けを行っている。また合同パトロールにおける福岡GAの役割は、GAが毎週行っている

防犯パトロールによって得られたまちの治安情報を提供することであり、合同パトロール時の効果的な活動を先導している。

5. 自主防犯活動の課題について

(1) 福岡GA防犯テントの公開性

参与観察によって、前述した防犯テント利用の半数近くを占める「常連」との会話は、その日の治安情報を得る有効な手段となっていることが把握された。加えて「その他」には防犯テント自体に興味を持ち、無目的で立ち寄る人が多数存在していた。このことより、福岡GAの活動拠点である防犯テントは、活動が見えやすい(敷居の低い)公開された形態であることが重要と考えられ、多くの利用者を引き込むことで防犯意識の啓発が促進される可能性も示唆されよう。

(2) 防犯活動団体と警察及び地域との連携の重要性

活動報告書の分析結果から、合同パトロールや防犯テントでの活動の際、福岡GAと警察が直接連絡を取っている状況が多く抽出された。さらに参与観察の結果から、常に警察と連携を取っている状況が福岡GAに対する市民の信頼を向上させていることが看取された。加えて警察との協働関係の構築が未成年者の補導や違法行為に対する声掛け等の実行力を高めているものと考えられる。一方、福岡GAの活動が天神地区に定着した背景として、天神2丁目自治会との協力が大きな理由として挙げられる。以上のことから、防犯団体の自主防犯活動をより効果的かつ継続的に進めていくためには、普段の地道な防犯活動において警察や地域との協働関係を築けているかが重要といえるだろう。

(3) 活動意識を高めるユニフォームの着用効果

GAの活動時における赤いベレー帽等のユニフォーム着用は、団体としての連帯感を増加させ、地域の人に認識されやすくなっている状況が参与観察の結果から看取された。またGA自身においてもユニフォームを着用することで、活動への士気・実行力の向上に繋がっていた。すなわち、ユニフォームの着用と認知度の向上は、自主防犯活動において積極的な活動展開に寄与する可能性が示唆できよう。

参考文献

- 1) 小宮信夫(2000)「NPOによるセミフォーマルな犯罪統制 - ガーディアンエンジェルス社会学 -」犯罪と非行(123),pp.96-123,2000-02
- 2) 福岡県新社会推進部生活安全課「地域防犯活動団体紹介」<http://www.anzen-fukuoka.jp/?ANZSESSID=ejqrynkr>